

## B-1 指導上の工夫点

### (1) 課題意識が持続し、自分の見方・考え方が広がり深まる学習活動の工夫

#### ア 身近な素材を生かす

食生活そのものが子どもたちにとって日々の暮らしに必須なものである。その食生活の中でも、特に「子どものおやつ」や「給食の献立」は身近でかつ取り組みやすい素材である。まず「子どものおやつ」では、ファーストフードであるハンバーガーやポテトチップスを取り上げ、そこに含まれる脂質成分だけを取り出し子どもの前に提示することで、その量の多さに気づかせ、おやつの取り方や栄養バランスのあり方について考えるきっかけを与える。それとともに、生活習慣病・食品添加物・遺伝子組み換え食品・食と環境問題などの食を取り巻く問題点なども提示して調べ活動のテーマとして提示する。また「給食の献立」では、献立のバランス表を提示することで、いかに給食が栄養バランスのとれた品目を用意しているかに気づくようにする。さらには、給食室で働く調理員の方々の様子をビデオで提示し、その苦労や努力に気づかせ、感謝の思いで給食をいただく思いを涵養する。

#### イ 体験的な活動を生かす

「玄米食と根菜汁」づくりとその専門家との交流を通して、健康的な食のあり方を体感的に知ることができる場を設定する。特に、保護者とともに体験する場にするにより、家庭内での食に関する会話を増やし、家族の中で自分の食生活を見直すきっかけとする。

#### ウ 多くの見方・考え方にふれる場の設定の工夫

食にかかわる問題点をテーマ別に分けて調べ活動をし、ポスターセッションで交流する場を通すことで、自分たちの食をとりまく問題がいろいろあることに気づかせ、日頃から表示をよく見たり、家の人と食の安全性について語り合ったりする行動が取れるようにする。また、自分たちの取り組んだ食育レポートをお互い見合ったり、栄養士の方にみてもらったりという場を設けてこれからの食生活で何に気をつけていけばよいかを見つめ直す場としていく。

### (2) 自らのあり方を見つめ直すことができる評価活動のあり方の工夫

#### ア 自己評価・相互評価・教師による評価の効果的な活用

自己評価の場面では、ワークシートの場で自分の学びに対する気づきについて書かせる。相互評価の場面では、ポスターセッションや食育レポートの場で友だちの「学び方」のよさや内容面のよさについて評価させる。そして、これらの評価したものを授業の初めや単元の中途中で教師が紹介し、次の学びへの意欲づけや学び方の広がりへとつなげていく。

#### イ 外部評価の活用・・・ 栄養士の方より 保護者の方より

食育レポートが完成後、本校の栄養士や調理員の方、ならびに保護者の方に直接見てもらい、その外部評価を受けることでさらに励みにして、食生活についてともに考えようという意識を育てていく。